

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

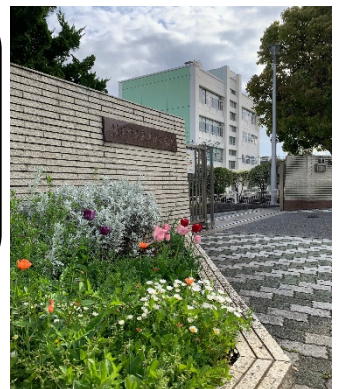
☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

ひぐみっ子は、私たちの希望です！

校長 丹羽正昇

今年度も新しいひぐみっ子を迎え、東汲沢小学校の令和3年度がはじまりました。

いちねんせい 一年生のみなさん、にゅうがく 入学おめでとうございます。
にねんせい 二年生から六年生のみなさん、しんきゅう 進級おめでとうございます。
まいにちせいちょう 毎日成長している自分に自信をもち、
これからはじまる 新しい生活に期待をふくらませながら、
いっしょに新しいひぐみをつくっていきましょう。よろしくおねがいします！



さて、私はこの時期に思い出すくだりがあります。それは、元号「令和」の典拠である万葉集の中の「初春令月 氣淑風和(初春の令月にして、気よく和らく) 梅披鏡前之粉 蘭薫珮後之香(梅は鏡前の粉をひらき、蘭は珮後の香を薫らす)」という言葉です。「初春のよき正月で、大気は清く澄み渡り風は和らいている。梅は咲き誇り、蘭は香りを漂わせている。」という意味で、大伴旅人や山上憶良の作といわれていますが、作者についてははっきりしたことは分かっていません。新元号が発表された当時の総理大臣は、「厳しい寒さの後に、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が、明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたいとの願いを込め、令和に決定した」と語っています。

このエピソードを、いまのコロナ禍の状況に当てはめてみるとどうでしょうか。確かにいまの状況には厳しいものがあります。しかし、けっして希望がないわけではありません。春は必ず来ます。「令和」という元号に込められた意味を解せば、希望は私たち一人ひとりだということです。中でも、子どもはいちばんの希望だと、私は思っています。子どもたち一人ひとりが希望をもちながら生活し、一人ひとりが大きな花を咲かせるような存在になってほしい。私たち東汲沢小学校の職員一同の願いです。そのように願うと同時に、私たちは、子どもが育つために必要とされる存在でありたいとも思っています。学校があるから子どもが通うのではなく、子どもがいるから学校がある。「子どもは育てる」のではなく、「育つ」存在なのだを合言葉とし、ご家庭や地域の皆さんと一緒に「子どもの育ち」を支えていきたい。そう考えています。

だからこそ、私たちは、子どもたちに自ら考え、判断し、行動することを求めます。誰かが言っているから、他の人がやっているからではなく、自分は何をどのように表現するのか、自分はどうしたいのか、どうするのか。責任ある言動を、それぞれの発達に応じて求めていきます。それが、未来社会に生きる子どもを、これからの時代のいちばんの希望だと考える東汲沢小学校の教育理念です。

令和3年度、改めて、「令和」に込められた思いを確認し、明るい希望をひぐみっ子に託す思いを念頭に置きながら日々の授業への研鑽を積み重ね、ひぐみの教育の質の向上を図っていきたいと思います。そして、学校教育目標である「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」の具現化に向け、職員一人ひとりが緊張感をもち全力を尽くしてまいります。年度の初めに思うことです。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。